

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600085		
法人名	社会福祉法人 ナイスランド北方		
事業所名	グループホームきたがた		
所在地	佐賀県武雄市北方町大字志久4531番地18		
自己評価作成日	令和6年2月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和6年3月14日	外部評価確定日	令和6年5月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は閑静な住宅街の中にあり、山と湖に囲まれた自然豊かな場所に施設を構えています。法人や施設の敷地内には色々な種類の花や樹を植えて、入居者様に四季を感じていただいたり、散歩時の楽しみの一つになっています。また、施設内の湖に面した場所には畑やウッドデッキを有しております。その畑では季節ごとの野菜を作り、入居者様と一緒に収穫して、調理を一緒に行い季節を味わっていただいています。湖に面したウッドデッキでは、天気の良い日には談話や音楽を聴きながらの外気浴を楽しまれたり、季節ごとに咲く花々や自然豊かな景色を眺めながらゆっくりとした時を過ごしていただいています。

日常生活については、掃除や食器洗い、調理など可能な限り職員や入居者様同士で一緒に楽しんでいます。また、母体となる特別養護老人ホームを始めとする法人内の様々な介護事業所の専門職との連携により、医療やリハビリ、栄養管理などを含めた様々な角度からの介護サービスを提供しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

山合の自然広がる敷地に法人が経営する多くの施設と事務所が展開されており、その一角にグループホーム「きたがた」がある。施設内は理事長の思いが詰まった木の温もりのある作りになっている。玄関には季節の飾りと理念が掲げられている。また玄関の傍には土足で入れる「暖炉の間」があり、利用者ばかりではなく地域の方々の相談、談話、憩いの場として気軽に使用されている。この地域にグループホームがなかった事もあり、立ち上げるにあっては地域の反対もあったが理事長の熱い思いが伝わり協力が得られた。周囲には高齢者が多くなり今ではなくてはならない存在である。理事長は「自分らしく、ほがらかに」をテーマしている。事故がない様に、認知症になっても住み慣れた所で過ごしてもらいたいとの願いがある。ミャンマー出身の職員がおり、利用者とコミュニケーションも良く溶け込み楽しいホームである。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である『自分らしく朗らかに』を、朝礼で唱和することで職員へのサービス提供に対する意識付けを行っている。理念の『自分らしく』とは、入居者様はもちろん、職員も同様であることを念頭に置いて仕事に務めるように言葉掛けを行っている。	事業所の理念である『自分らしく朗らかに』を、朝礼で唱和することで職員へのサービス提供に対する意識付けを行っている。理念の『自分らしく』とは、入居者様はもちろん、職員も同様であることを念頭に置いて仕事に務めるように言葉掛けを行っている。	創立19年になるが理念は変える事なく守られている。理念は朝礼で唱和されていて職員は振り返る事が出来入所者様のケアに反映されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類に移行してから、少しずつだが、地区の子供浮立が来苑して子供達と一緒に太鼓を叩かせていただくなどの交流が再開してきた。また、法人敷地内にある奥庭(美彩の森)へ行く際に近隣住民と挨拶を交わしている。	コロナが5類に移行してから、少しずつだが、地区の子供浮立が来苑して子供達と一緒に太鼓を叩かせていただくなどの交流が再開してきた。また、法人敷地内にある奥庭(美彩の森)へ行く際に近隣住民と挨拶を交わしている。	町内会に参加し、班長さんから地区の行事等の連絡があったり、職員が住民である為情報は得られている。利用者様が子供の登下校の際の見守りにも協力されている。コロナ禍も少しずつ回復し、交流の再開を望まれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民の方々から声をかけていただく機会があり、近隣で問題となっている方の今後について相談を受けることがあり、「入居するために必要なことや、どのような方が入居されているのか」などの質問を受け、お答えしている。	近隣住民の方々から声をかけていただく機会があり、近隣で問題となっている方の今後について相談を受けることがあり、「入居するために必要なことや、どのような方が入居されているのか」などの質問を受け、お答えしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催日とご意見を頂きたい旨をグループホーム便りに記載して送付させていただいている。また、ケアプラン更新のために来苑していただいた際には、どのような行事を行ったか、その時の本人様の表情や反応などを伝えている。ケアプランに対する個人的な要望もあるが、全体に活かせるように記録にも残し、行事に活かすこともある。	運営推進会議の開催日とご意見を頂きたい旨をグループホーム便りに記載して送付させていただいている。また、ケアプラン更新のために来苑していただいた際には、どのような行事を行ったか、その時の本人様の表情や反応などを伝えている。ケアプランに対する個人的な要望もあるが、全体に活かせるように記録にも残し、行事に活かすこともある。	会議は2ヶ月に1回ホーム独自でと事業所合同で行われている。事業所、地域の代表、行政からの参加がある。前年度はコロナ禍で家族の参加はなかったが、今後家族の参加が予定されている。それぞれの立場から意見交換があり質問には職員から説明がされている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者から「空き状況や相談にいられている方の情報」などの連絡を頂き、入居に向けた支援に取り組んでいる。生活保護の対象である入居者様については、困った時や不明瞭な点が生じた時は、その都度連絡をして回答を得ている。また、市役所との連携を必要とする入居者様があり、武雄市のみならず、他市町村の担当職員等とも連携して対応している。	市役所の担当者から空き状況や相談にいられている方の情報などの連絡を頂き、入居に向けた支援を行っている。 入居者様数名については、自宅が空き家になっている方もおられるため、郵便物の転送先変更等について市役所職員とやり取りを行っている。	市役所や地域包括支援センターとの連携は取れている。キャラバンメイト(認知症サポーター養成講座の講師)等にも参加され活動されている。行政から研修の案内や情報も得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	関係機関からの資料や法人内部の委員会からの情報で常に最新の内容について職員間での情報共有を行い、勉強会の実施やアンケートによる自身のケアに対して振り返り、現在の状況を整理したうえで、必要と思われるケアが何かを考える機会を設けて取り組んでいる。 玄関の施錠については、建物の前が車道であるなどの状況を踏まえて、家族様のご理解の上で柔軟に対応している。	関係機関からの資料や法人内部の委員会からの情報で常に最新の内容について職員間での情報共有を行い、勉強会の実施やアンケートによる自身のケアに対して振り返り、現在の状況を整理したうえで、必要と思われるケアが何かを考える機会を設けて取り組んでいる。 玄関の施錠については、建物の前が車道であるなどの状況を踏まえて、家族様のご理解の上で柔軟に対応している。	年1回法人で研修が実施され参加されている。参加出来ない場合には資料回覧で理解されている。身体拘束ばかりではなく言葉遣いや目線を合わせる等に配慮され弊害も理解されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通して、日々のケアの振り返りを行っている。また委員会対応で『虐待の芽』のアンケートを実施し、それによって見えてきた課題を整理して取り組んでいる。	内部研修を通して、日々のケアの振り返りを行っている。また委員会対応で『虐待の芽』のアンケートを実施し、それによって見えてきた課題を整理して取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等で得た情報を活用して勉強会を開催するなど、情報共有しながら常に意識して対応している。 成年後見人制度については、勉強会は行っているが、質問がある場合は都度個別に対応している。	外部研修等で得た情報を活用して勉強会を開催するなど、情報共有しながら常に意識して対応している。 成年後見人制度については、勉強会は行っているが、質問がある場合は都度個別に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な時間を設けて説明している。改定時は文書での説明以外に、来苑して頂ける家族様には直接説明している。遠方のため来苑が難しい場合は、電話にて説明した上で文書を送付。内容を確認して頂いてから一部を返送して頂くよう依頼している。	入居時に十分な時間を設けて説明している。改定時は文書での説明以外に、来苑して頂ける家族様には直接説明している。遠方のため来苑が難しい場合は、電話にて説明した上で文書を送付。内容を確認して頂いてから一部を返送して頂くよう依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様とは、日々のコミュニケーションの中で把握出来た希望などを職員間で共有し、サービス提供に活かしている。家族様とは面会時やカンファレンス時などに近況報告をして意見などを伺うようにしている。 法人内部に第三者委員会や苦情・相談窓口を設け、報告して助言などを受けて運営に反映させている。	入居者様とは、日々のコミュニケーションの中で把握出来た希望などを職員間で共有し、サービス提供に活かしている。家族様とは面会時やカンファレンス時などに近況報告をして意見などを伺うようにしている。 法人内部に第三者委員会や苦情・相談窓口を設け、報告して助言などを受けて運営に反映させている。	毎月のお便りにご意見欄を設けているが面会や電話連絡時にご意見を伺う事が多い。出された意見は会議で話し合い、出来る所から改善されている。家族より歯ブラシスタンドは利用者毎にしてもらいたいとの意見があり改善されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催しているグループホーム会議について、会議内での発言が難しい事案等への対応として、個別に報告や意見を受け付けたり、事前にアンケートを実施した結果を資料に反映させるなど、職員が報告や提案を出しやすいようにしている。その内容を踏まえて、可能な限り運営に反映させるように努めている。	毎月開催しているグループホーム会議について、会議内での発言が難しい事案等への対応として、個別に報告や意見を受け付けたり、事前にアンケートを実施した結果を資料に反映させるなど、職員が報告や提案を出しやすいようにしている。その内容を踏まえて、可能な限り運営に反映させるように努めている。	法人内での異動はある。開設以来永年勤務の男性が退職された。休みも取り易く、急な休みにも対応出来ている。男性職員、ミヤンマーの職員と共に職員同志のコミュニケーションも良く、働き易いという。職員の意見は法人本部に伝えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、6月と12月に主任やグループリーダーが職員と個人面談を実施して、やりたい事や悩みなどリアルタイムの思いを把握している。また、職員間で話し合った内容をグループリーダーがまとめて報告することで、職員の働きやすい環境作りに努めている。	年2回、6月と12月に主任やグループリーダーが職員と個人面談を実施して、やりたい事や悩みなどリアルタイムの思いを把握している。また、職員間で話し合った内容をグループリーダーがまとめて報告することで、職員の働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月実施している内部研修の担当を職員個々に任せて資料作成から発表までさせることで資質向上に努めている。 新人教育なども各ユニットに任せて教育を担うことで、ケアの具体的な振り返りや学びの場になっている。	毎月実施している内部研修の担当を職員個々に任せて資料作成から発表までさせることで資質向上に努めている。 新人教育なども各ユニットに任せて教育を担うことで、ケアの具体的な振り返りや学びの場になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の影響もあり、他事業所との交流や勉強会はほぼ出来ない。法人内の研修時に、法人内の他部署の職員との交流の機会を設けて、理学療法士や作業療法士にリハビリについて相談してケアの方法について助言をいただくなどして、統一したケアにつなげている。	コロナ禍の影響もあり、他事業所との交流や勉強会はほぼ出来ない。法人内の研修時に、法人内の他部署の職員との交流の機会を設けて、理学療法士や作業療法士にリハビリについて相談してケアの方法について助言をいただくなどして、統一したケアにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様や家族様に、これまでの生活状況などに関して話を聞いたうえで、本人に寄り添って傾聴し、安心して過ごして頂けるような関係作りを心がけている。入居されてすぐは、特にコミュニケーションを密に取り、時には他入居者様にも間に入っていたりしながら話しやすい環境づくりに努めている。	入居者様や家族様に、これまでの生活状況などに関して話を聞いたうえで、本人に寄り添って傾聴し、安心して過ごして頂けるような関係作りを心がけている。入居されてすぐは、特にコミュニケーションを密に取り、時には他入居者様にも間に入っていたりしながら話しやすい環境づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めのうちは何を話したらいいのかわからない家族様が多いため、質問形式で会話を進めることで話しやすい雰囲気を作るなどして、安心して話して頂けるような対応を行いながら入居前からこまめに連絡を取るようになっている。	初めのうちは何を話したらいいのかわからない家族様が多いため、質問形式で会話を進めることで話しやすい雰囲気を作るなどして、安心して話して頂けるような対応を行いながら入居前からこまめに連絡を取るようになっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から家族様とのやり取りを行い、話をさせていただいたりしながら、話しやすい環境作りを心がけている。 また、入居前に様態訪問を行うなどして現状の聞き取りを行ったり、入居予定の本人との対話を行うことで支援内容に活かしている。	入居前から家族様とのやり取りを行い、話をさせていただいたりしながら、話しやすい環境作りを心がけている。 また、入居前に様態訪問を行うなどして現状の聞き取りを行ったり、入居予定の本人との対話を行うことで支援内容に活かしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の経験談を聞き、その方が得意とされている内容については見守り等行いながら、可能な限りご自身でして頂いている。その中でコミュニケーションを図るなどして入居者様が自分らしく過ごせるような環境作りに取り組み、関係づくりに努めている。	入居者様の経験談を聞き、その方が得意とされている内容については出来るだけ取り入れている。その中でコミュニケーションを図るなどして入居者様が自分らしく過ごせるような環境作りに取り組み、関係づくりに努めている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様との関わりが薄れないように、近況報告して、家族様が対応出来る内容はお願いするなど一緒に支え合う体制づくりに努めている。	入居者様との関わりが薄れないように、近況報告して、家族様が対応出来る内容はお願いするなど一緒に支え合う体制づくりに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染対策のためにガラス越しで対応していた面会内容を緩和し、人数や時間等の制限はあるものの、同じ空間内で会話できるようにしたことで入居者様や家族様に笑顔が見られる状況となり、面会の頻度も増加している。 個人携帯をお持ちでない入居者様も、グループホームの電話を借りて、外部との連絡に使用されている。	コロナ感染対策のためにガラス越しで対応していた面会内容を緩和し、人数や時間等の制限はあるものの、同じ空間内で会話できるようにしたことで入居者様や家族様に笑顔が見られる状況となり、面会の頻度も増加している。 個人携帯をお持ちでない入居者様も、グループホームの電話を借りて、外部との連絡に使用されている。	面会は多い。コロナ禍で面会制限がある中、短時間で面会して頂き人数の多い場合は分けて面会して頂いている。携帯電話持参の方は自由に連絡を取り合い、電話の取次ぎも行われている。食材の買い物には利用者と出かける事もある。近所の方との挨拶もされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様は、性格も育った環境も異なるため、入居者様の関係性を把握しながら、食席やソファの座る位置を都度変えて関わり合いを持って過ごして頂けるように交流の場を設けている。	入居者様は、性格も育った環境も異なるため、入居者様の関係性を把握しながら、食席やソファの座る位置を都度変えて関わり合いを持って過ごして頂けるように交流の場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、その後の経過や転居先などの連絡をいただくなど、家族様と連絡を取り合っている。 退居後に経過が悪くなられて亡くられるケースもあるが、挨拶に来てくださる家族様もいる。	退居された後も、その後の経過や転居先などの連絡をいただくなど、家族様と連絡を取り合っている。 退居後に経過が悪くなられて亡くられるケースもあるが、挨拶に来てくださる家族様もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様それぞれとコミュニケーションを取る中で、その方の思いや希望などを把握し、日々の様子から考察を行い、カンファレンスを通して情報共有を図っている。入居者様の気持ちを最優先として、職員間で情報共有を行ったうえでケアの統一を行っている。困難な場合には家族様に相談して協力をお願いしている。	入居者様それぞれとコミュニケーションを取る中で、その方の思いや希望などを把握し、日々の様子から考察を行い、カンファレンスを通して情報共有を図っている。入居者様の気持ちを最優先として、職員間で情報共有を行ったうえでケアの統一を行っている。困難な場合には家族様に相談して協力をお願いしている。	レクリエーションや入浴時、リビングで過ごされている時等に声掛けコミュニケーションを取っている。日頃見られない行動や表情、つぶやきを観察し申し送りノートに残して介護計画に活かされている。テレビを見ながら食べたい物、行きたい所等の要望に出来る限り対応されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や家族様としっかり話をしたり、本人の様子を観察することで、知りえた情報を整理してフェイスシートに記載することで職員間で情報を共有している。	入居者様や家族様としっかり話をしたり、本人の様子を観察することで、知りえた情報を整理してフェイスシートに記載することで職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の表情、行動、食事摂取量やバイタルサイン、会話などによって心身の状態把握に努めている。毎日同じルーティンの方もいるが、体調や状態に合わせたケアを行っている。生活の中で観察と考察を行い、職員間で情報の共有を行っている。	入居者様の表情、行動、食事摂取量やバイタルサイン、会話などによって心身の状態把握に努めている。毎日同じルーティンの方もいるが、体調や状態に合わせたケアを行っている。生活の中で観察と考察を行い、職員間で情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、各職員の考察を聞きながら対策をまとめている。モニタリングをする中で、わからない内容は日々業務に当たっている職員に相談しながら、課題が見つかった時など必要であれば簡易的なカンファレンスも都度行っている。	定期的カンファレンスを行い、各職員の考察を聞きながら対策をまとめている。モニタリングをする中で、わからない内容は日々業務に当たっている職員に相談しながら、課題が見つかった時など必要であれば簡易的なカンファレンスも都度行っている。	担当者会議に家族の参加はある。日々の様子や申し送りノートを参考にしている。介護計画の際には必ず家族、本人に問いかけ医師の意見も取り入れられている。6か月のプランであるが、体調の変化の際にはご家族にも連絡し現時点に合わせて計画の見直しをされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や言動など、入居者様の声を大事にして、個々のケース記録に記入し、情報の共有をすることで把握、実践に活かしている。重要なことは申し送り簿にも転記して、改めて職員間で情報を共有している。	日々の状態や言動など、入居者様の声を大事にして、個々のケース記録に記入し、情報の共有をすることで把握、実践に活かしている。重要なことは申し送り簿にも転記して、改めて職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日には、事前にご本人に尋ねた好きなものを盛り込んだ食事を提供している。受診対応については基本は家族様対応としているが、遠方や仕事の都合で難しい場合、認知症対応が出来なかったと悩む家族が多く、職員が代わりに対応させていただいている場合もある。	誕生日には、事前にご本人に尋ねた好きなものを盛り込んだ食事を提供している。受診対応については基本は家族様対応としているが、遠方や仕事の都合で難しい場合、認知症対応が出来なかったと悩む家族が多く、職員が代わりに対応させていただいている場合もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	草むしりや花植、ホームエントランスの掃除を手伝っていただく中で、近隣を散歩されている方々と挨拶を交わすなどの交流を大切にしている。	草むしりや花植、ホームエントランスの掃除を手伝っていただく中で、近隣を散歩されている方々と挨拶を交わすなどの交流を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があればかかりつけ医を継続していただいている。家族様が近くに住んでいないケースもあり、入居前まで独居であった方も多し。家族様での受診対応が難しく、緊急でない受診でも職員が対応する場合もあるが、その際は職員が対応し、受診内容について家族様へ報告して情報共有を行っている。 家族様が受診対応する場合においても、主治医にあてた情報提供書や電話にて主治医と情報共有を行っている。	希望があればかかりつけ医を継続していただいている。家族様によっては遠方で毎月の受診対応が難しく、往診で対応する場合も多い。また、緊急で受診を要する場合は、職員が対応し、受診内容について家族様へ報告して情報共有を行っている。 家族様が受診対応する場合においても、主治医にあてた情報提供書や電話にて主治医と情報共有を行っている。	受診は家族、利用者の希望である。家族の協力であるが対応出来ない場合は職員が対応されている。医師からの情報は職員で確認され申し送りノートで把握されている。急患や夜間は法人内の各事業所と連携が取れ家族、職員ともに安心で心強い。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介助の際に皮膚の状態観察を行っており、日常生活の中でいつもと様子が違った場合や異常が見られた時は看護職員に報告している。不在の場合は、法人内の看護職員と連携して随時相談出来る体制を整備している。	生活の中でいつもと様子が違った場合や異常が見られた時は看護職員に報告している。不在の場合は、法人内の看護職員と連携して随時相談出来る体制を整備している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は看護職員又はユニットリーダーが作成した情報提供書を入院先の医療機関に提供している。入院された後も、ソーシャルワーカーと連絡を取り合うなど情報交換などの関わりを密に行い、入居者様が安心して治療を受けられるような対応を行っている。	入院された時は看護職員又はユニットリーダーが作成した情報提供書を入院先の医療機関に提供している。入院された後も、ソーシャルワーカーと連絡を取り合うなど情報交換などの関わりを密に行い、入居者様が安心して治療を受けられるような対応を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に関する対応や看取りに関する指針について説明している。その状況になった場合は、本人や家族様の希望を尊重して施設として対応出来ることを説明し、対応について協議しながらチームとして支援している。	契約時に重度化に関する対応や看取りに関する指針について説明している。その状況になった場合は、本人や家族様の希望を尊重して施設として対応出来ることを説明し、対応について協議しながらチームとして支援している。	入居時に重度化や終末期の説明をされ同意を得られている。容態の変化に伴いその都度家族と相談しながら事業所で出来る範囲で見守っている。病院や特別養護老人ホームでの治療を希望される事が殆どの為、看取りの経験は無い。利用者、家族にとっていい最期であるように職員は見守っている。		



自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人として、毎年消防署に依頼して『救急救命法やAED使用方法』についての講義をしていただいている。緊急時の対応について学び、誰もが同じように対応出来るように取り組んでいる。 救急車要請が必要になった時のために、グループホームの所在地や連絡先などを掲示している。	法人として、毎年消防署に依頼して『救急救命法やAED使用方法』についての講義をしていただいている。緊急時の対応について学び、誰もが同じように対応出来るように取り組んでいる。 救急車要請が必要になった時のために、グループホームの所在地や連絡先などを掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、法人全体の訓練で、グループホームきたがたを火元とした昼間と夜間を想定した避難訓練を地域の消防団の参加のもと実施することで、地域との協力体制を築いている。グループホームとしても、各職種の職員対応で机上でのシュミレーションを実施。 また、法人が武雄市の福祉避難所として指定されており、地域住民の災害時の受け入れ対応も出来るように、地域との協力体制を取っている。	年2回、法人全体の訓練で、グループホームきたがたを火元とした昼間と夜間を想定した避難訓練を地域の消防団の参加のもと実施することで、地域との協力体制を築いている。グループホームとしても、各職種の職員対応で机上でのシュミレーションを実施。 また、法人が武雄市の福祉避難所として指定されており、地域住民の災害時の受け入れ対応も出来るように、地域との協力体制を取っている。	地元の消防団の参加で年2回夜間想定訓練が行われている。サイレンの設備がある。備蓄の準備はされており、水はタンクの装置がある。災害時は地域の避難場所に指定されている。実際に段ボールベッド使用の経験もされている。職員に地元の消防団員がいて心強い。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人が違う個性を持った目上の方であるということ意識し『認知症患者』ではなく『一人の人間』ということを念頭に置き、距離感なども配慮したうえで対応している。 その方のプライバシーや人格を尊重し、コミュニケーションを取るよう心がけている。入居者様が不安なことなど色々な話をされた時は、傾聴することで安心していただけるように努めている。	入居者様一人一人が違う個性を持った目上の方であるということ意識し『認知症患者』ではなく『一人の人間』ということを念頭に置き、距離感なども配慮したうえで対応している。 その方のプライバシーや人格を尊重し、コミュニケーションを取るよう心がけている。入居者様が不安なことなど色々な話をされた時は、傾聴することで安心していただけるように努めている。	事業所内で接遇の研修がある。声掛けや言葉遣い、トイレ誘導には気を付けている。方言は利用者にも愛着があり、解り易く伝わり必要に応じて使い分けている。管理者は着任して職員の言葉がきれいで、穏やかな雰囲気を感じたと言う。現在もその雰囲気を大事にされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して本人が希望されていることや好きなことを把握するよう心がけている。時には質問形式でその方の趣味趣向を引き出すなど、入居者様の声を大事にしている。これは食事やレクリエーションなど多岐にわたるもので、自己決定出来るように働きかけている。	コミュニケーションを通して本人が希望されていることや好きなことを把握するよう心がけている。時には質問形式でその方の趣味趣向を引き出すなど、入居者様の声を大事にしている。これは食事やレクリエーションなど多岐にわたるもので、自己決定出来るように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の趣味趣向を踏まえて声掛けにて『今何がしたいか』を確認しながら支援や提案をしている。交流の場も大事だが一人の時間も大事にしていただいている。表情や会話、体調や精神面を考慮し、自室で過ごす頂くこともある。その方のペースで生活して頂くように対応している。	個人の趣味趣向を踏まえて声掛けにて『今何がしたいか』を確認しながら支援や提案をしている。交流の場も大事だが一人の時間も大事にしていただいている。表情や会話、体調や精神面を考慮し、自室で過ごす頂くこともある。その方のペースで生活して頂くように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着替えられる方は好みの服を自分で選ばれているが、介助が必要な方には声をかけて選んでいただくなどの対応をしている。整容については、いつでも髪がとけるように櫛を洗面台に設置。自分で気づけない方には声掛けをしている。また、2～3ヶ月に一度訪問美容を依頼している。	自分で着替えられる方は好みの服を自分で選ばれているが、介助が必要な方には声をかけて選んでいただくなどの対応をしている。整容については、いつでも髪がとけるように櫛を洗面台に設置。自分で気づけない方には声掛けをしている。また、2～3ヶ月に一度訪問美容を依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で育てている野菜を入居者様と一緒に収穫し、料理を1品増やすこともある。料理が好きな方には参加して頂き、調理だけでなく、つぎ分けをお願いするなど、それぞれ入居者様の得意分野に合わせた支援をしている。誕生会や毎月の行事ごとでは希望を伺い、食べたい物を提供するようになっている。見た目も重視し、刻みや加工が必要な方でも、食欲をそそるような色彩や盛り付けに注意しつつ食べやすい内容にするなど盛り付けを工夫している。	畑で育てている野菜を収穫し、料理を1品増やすこともある。誕生会や毎月の行事ごとでは事前に希望を伺い、食べたい物を提供するようになっている。刻みや加工が必要な方でも、食欲をそそるような色彩や盛り付けに注意を払っており、食べやすい内容で盛り付けを工夫している。なかなか食事が進まない入居者様には、家庭の漬物を用意していただいたり、おやつに嗜好品を召し上がっていただくなどの工夫を行っている。	食材とメニューは外部から取り寄せている。行事食、季節食には畑で収穫した旬の野菜を利用している。利用者の希望を取り入れ、買い物も利用者と一緒に出かけている。調理は専任のスタッフが交代で行い、利用者も出来る範囲で下準備や味見等に参加している。食べ易い形態にされ美味しいと完食されている。職員も希望で利用者と同じ物を食べながら見守っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体重や状態に応じて量や形態を変えて対応。好き嫌いがある方には食材を変更するなど、美味しく食べていただく工夫をしている。その方の嚥下状態に合わせて一口大にカットしたり、とろみをつけるなどの工夫をし、摂取量や水分量は毎日記録している。	個々の体重や状態に応じて量や形態を変えて対応。一口大にカットしたり、とろみをつけるなどの工夫をし、摂取量や水分量は毎日の記録として残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれレベルは違うが、職員が確認しながら出来るだけ本人自身に口腔ケアをして頂いている。残渣物が残っているときは介助を行っている。訪問歯科より助言を受け、状態に合わせてスワブや歯間ブラシ等を使って病気の予防や清潔保持を保っている。	それぞれレベルは違うが、職員が確認しながら出来るだけ本人に口腔ケアをして頂いている。残渣物が残っているときは介助を行っている。訪問歯科より助言を受け、状態に合わせてワンタクト歯ブラシを使って口腔内の清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	羞恥心もあるため、プライバシーに配慮したうえで定時の声掛けを行い、トイレでの排泄に向けた支援を行いながら個別の排泄パターンの把握に努めている。パットの量やサイズ、布パンツの利用など、職員でのカンファレンスを行い自立に向けた支援を行っている。	羞恥心もあるため、プライバシーに配慮したうえで定時の声掛けを行い、トイレでの排泄に向けた支援を行いながら個別の排泄パターンの把握に努めている。パットの量やサイズ、布パンツの利用など、職員でのカンファレンスを行い自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを利用し誘導されている。1人で行く方や身動きで様子が分かり声掛けしている。夜間はポータブル使用もある。衣類の上げ下げ出来ないところは職員が身繕いを手伝っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	認知症のBPSDが便秘による腹部干満からも発生する事を理解し、体操や運動など体を動かす支援だけでなく、水分量の調整を行っている。排泄チェック表で排便等の状況を確認し、看護職員に相談して指示を仰いでいる。自力での対応が難しい方に関しては、主治医に相談して下剤の調整等を行っている。	認知症のBPSDが便秘による腹部干満からも発生する事を理解し、体操や運動など体を動かす支援だけでなく、水分量の調整を行っている。排泄チェック表で排便等の状況を確認し、看護職員に相談して指示を仰いでいる。自力での対応が難しい方に関しては、主治医に相談して下剤の調整等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回入浴の曜日を決めて対応しているが、拒否がある時は別日に変更するなど臨機応変に対応している。バイタル測定等で体調管理をしっかりと確認したうえで、その方のADL(日常生活動作)の状態に合わせて介助を行っている。皮膚の疾患や感染症の有無によっては入浴の順番を変更している。ヒートショックを防ぐために、脱衣室の暖房を入れて、浴室との温度差がないように気を付けている。職員と1対1での対応で入浴の時間を楽しんでいただいている。	週に2回入浴の曜日を決めて対応している。バイタル測定等で体調管理をしっかりと確認したうえで実施している。その方の状態に合わせて介助を行いながら、職員との1対1での入浴の時間を楽しんでいただいている。入浴拒否がある入居者には、本人の意向を汲みつつ入浴介助を行い、入浴しない日が長くなったときは、清潔保持のため清拭や洗浄、更衣のみでもして頂けるようにお声掛けしている。	週2回の入浴である。浴槽は中央に設置され介助し易く安全である。男性4名の利用者があるが順番の決まりはなく、気分や体調に合わせて実施されている。入浴剤は利用者の希望により使用されている。足浴、シャワー浴、清拭の対応もある。衣類の上げ下げ等出来ないところは職員が身繕いを手伝っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やウッドデッキなど、様々な場所に休憩出来る工夫をしており、自由に寛いでいただけるようにしている。その日の気温や個人の状況を判断しながら温度調整をし、時に膝掛などを使用しながら、快適に過ごして頂けるよう対応している。	居室やウッドデッキなど、様々な場所に休憩出来る工夫をしており、自由に寛いでいただけるようにしている。その日の気温や個人の状況を判断しながら温度調整をし、時に膝掛などを使用しながら、快適に過ごして頂けるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様ごとのファイルに最新の薬剤情報提供表を綴じている。内容が変更したり注意が必要なときは申し送り簿などに記入するなどして情報共有を行っている。また、誤薬を防ぐため、4回確認を実施している。	入居者様ごとのファイルに最新の薬剤情報提供表を綴じている。内容が変更したり注意が必要なときは申し送り簿などに記入するなどして情報共有を行っている。また、誤薬を防ぐため、4回確認を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を活かして掃除や洗濯物干し、食事の準備など日常生活の一部の手伝いを一緒にして頂くことで、役割を持ってやりがいを感じながら過ごしていただくように支援している。季節感を感じられる工作や編み物の制作を一緒にすることでメリハリのある生活をしていただいている。	得意分野を活かして洗濯物干しや食事の準備などの日常生活の一部の手伝いなどのお手伝いをして頂くことで、役割を持って過ごしていただくように支援している。脳トレにパズルや計算問題を好まれるため、飽きがこないように随時新しいものを用意している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を感じていただけるようにバスハイイクなどを計画して『桜、紫陽花、秋桜見学』などを楽しんでいた。感染症等に配慮しながら、状況に応じては車窓からの対応なども適宜行っている。 施設内ではウッドデッキや畑の周りを散歩したり、法人の敷地内にある奥庭(美彩の森)に行っておやつなどを提供したりして楽しんでいた。	感染症対策に配慮した上で四季を感じていただけるよう、施設周辺の桜見学や杏や梅の花見、ウッドデッキや畑の周りを散歩したり、法人の敷地内にある奥庭(美彩の森)に行くなど、個別支援を行い楽しんでいた。家族様や地域の方々との交流はまだあまり出来ていない現状ではあるが、安全を確保しながら外出を楽しんでいた。	季節毎の行事がある。感染対策をし出掛けられている。広いウッドデッキで湖や水鳥を眺めながら食事やお茶の時間を楽しんでいる。畑で野菜作りをされ苗には利用者の名札が付けられ、水やり、収穫の楽しみや励みになっている。気分転換、日光浴、運動にもなっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様や入居者様に了承のうえで、職員が管理している。本人から依頼された時は、家族様に報告して購入するなどの支援を行っている。時には、職員が同行して外出し、ご本人主体で希望される物を購入できるように支援している。 また、週に1回、武雄市から移動販売車が来るため、付き添ってご自身で好きなものを選んでいただく機会も設けている。	家族様や入居者様の了承のうえで、職員が管理している。本人から依頼された時は、家族様に報告のうえ、購入するなどの支援を行っている。時には、職員が同行して外出し、ご本人主体で希望される物を購入できるように支援している。 また、週に1回、武雄市から移動販売車が来るため、付き添ってご自身で好きなものを選んでいただく機会も設けている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を自身で管理されている入居者様は自由に家族様へ電話されている。ただし、充電などの管理は職員が夜間に対応することで常に使用出来る状態に努めている。携帯電話を持っていない入居者様は、依頼があった時は施設の固定電話で対応している。	依頼があった時は施設の固定電話を使用して話をされている。混乱時は傾聴して落ち着いていただいから対応している。また家族様からの電話が多く、ゆっくりお話しが出来るように、場所を設けてお話していただいている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に応じた貼り絵や作品をレクリエーションの一環として一緒に作成に取り組んでいる。完成した作品は、共用空間にの壁などに掲示して、季節を感じて頂いている。感染症対策の一環で、共用空間やトイレ掃除は一日に2回実施し、清潔を保つようにしている。畑やウッドデッキの花や野菜を見ながら季節を楽しんで頂き、収穫する楽しさを味わっていただいている。	毎月、季節に応じた花の写真を共用空間に掲示している。ご本人が仕上げた塗り絵の作品などを食席のパーテーションに掲示させていただいたりしている。感染症対策の一環で、共用空間やトイレ掃除は一日に2回実施し、清潔を保つようにしている。畑やウッドデッキの花や野菜を見ながら季節を楽しんで頂き、収穫する楽しさを味わっていただいている。	広いリビングは天井が高く日当たりも良く明るい。ユニットは半分仕切られているが自由に行き来出来る。利用者の作品は掲示されている。床暖房がある。湖の見える側は縦ガラスで季節毎の大自然が目の前に広がる。畳の間もあり作業や団らんが出来る。テレビや新聞を見ながらのんびりと過ごされている。作品作りや催し物等職員の工夫が伺える。台所から利用者の様子を伺いながら調理され美味しい匂いも感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	誰でも使用できるようにソファや談話コーナーにも椅子を設置しており、自由に過ごしていただける環境作りを行っている。畳の間は、談話や工作の場所としてだけでなく、皆さんと一緒に洗濯物を干したり畳む場としてコミュニケーションの場にもなっている。安心して自由に過ごしていただけるように、整理整頓を心がけている。	誰でもテレビが観られるようにソファの配置を工夫し、テレビ番組を楽しまれたり、皆さんで体操するなどレクリエーションとしても活用している。畳の間は、談話や工作の場所としてだけでなく、皆さんと一緒に洗濯物を干したり畳む場としてコミュニケーションの場にもなっている。安心して自由に過ごしていただけるように、整理整頓を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様に相談して、自宅で使い慣れた物を持参して頂き、好みの物を置いたり、本人が作った作品やカレンダーを飾るなど自由にレイアウトして頂き、楽しい空間を自身で作っていただけるような支援を行っている。また、家族様に依頼して家族写真などを持ってきていただいている。自分の居室がわからなくなってしまう時でも、自身の作品や名前が書かれた物を見ることで、自身の部屋と認識されている。	家族様に相談して、自宅で使い慣れた物を持参して頂き、好みの物を置いたり、本人が作った作品やカレンダーを飾るなど自由にレイアウトして頂き、楽しい空間を自身で作っていただけるような支援を行っている。また、家族様に依頼して家族写真などを持ってきていただいている。自分の居室がわからなくなってしまう時でも、自身の作品や名前が書かれた物を見ることで、自身の部屋と認識されている。	居室の入口には花の絵が掲げられ目印となっている。理事長のこだわりでドアは各居室毎に異なっている。施設内は落ち着いた木の温もりがあり、日本風である。1ユニットに4カ所のトイレがある。テレビ、椅子、写真、作品も飾られている。廊下は障害物も無く安全に移動出来る。掃除はリビング、居室共利用者と職員で行い清潔で整理整頓され心地良い住まいとなっている。事務所に夜間の居室の様子が分かる様に「ねむりスキャン」の装置が取り付けられ危険度によって色の変化や音が出る仕組みになっており、夜勤者の助けになっている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできる だけ自立した生活が送れるように工夫して いる	自由に移動できるように場所の表 示をしたり、安全に歩行出来るよう に様々な所に手すりを設置してい る。特にトイレは3枚扉となっており、 車椅子対応になった場合でも入口 のスペースが広く取れるようになって いる。レクリエーション道具入れに は名前をつけており、入居様が自 由に出し入れしやすいように工夫し ている。	自由に移動できるように場所の表 示をしたり、安全に歩行出来るよう に様々な所に手すりを設置してい る。特にトイレは3枚扉となっており、 車椅子対応になった場合でも入口 のスペースが広く取れるようになって いる。レクリエーション道具入れに は名前をつけており、入居様が自 由に出し入れしやすいように工夫し ている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)		○	1. ほぼ全ての利用者の
		○		2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)		○	1. 毎日ある
		○		2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○		2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
			○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○		1. ほぼ毎日のように
			○	2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない